町の飛躍を願う 町民新年挨拶会

桑折町民新年挨拶会が1月5日、JAふくしま未来桑折支店ふれあいホールで開かれ、約150人が出席しました。はじめに、髙橋宣博町長が「本年は、町制施行70周年記念事業を通して得られた町民のみなさんとの共創のもと、地域資源を活用した桑折ならではの特色ある各種施策に取り組んでいきますので、さらなるご支援をお願いします」とあいさつ。続いてJAふくしま未来の半澤正志桑折地区担当理事、桑折町商工会の渋谷浩一会長が新年の抱負を語りました。会場には、商工業・農業・行政などの多様な分野・団体から多くの参加者が集い、昨年の取り組みや今年1年間の展望などを話し合いながら親睦を深め、一層の町政発展を願いました。

1_町長をはじめ、各団体の代表らが新年の抱負を語りました
2_実りある1年となるよう祈念して行われた鏡開き

歴史と文化を巡り未来のまちづくりを共有 県知事と町長の意見交換会

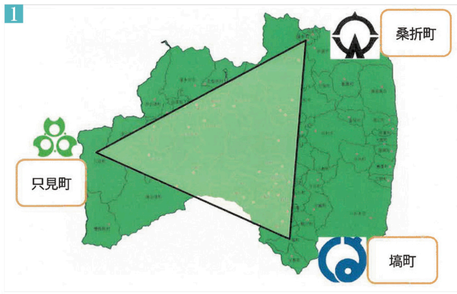
内堀雅雄県知事と髙橋町長の意見交換会が1月7日、町内で行われました。当日は、身近にある芸術作品や福島県ならではの自然、伝統文化などを巡り、県民一人一人が気軽に無理なく楽しみながら健康づくりに取り組む県事業「ふくしまアートウォーキング」の実践も兼ねており、県知事と町長は旧伊達郡役所と無能寺の御蔭廼松を訪れました。旧伊達郡役所では、町長が館内を紹介しながら、町のこれまでの取り組みや今後のまちづくりについて説明。無能寺では、県の天然記念物に指定されている御蔭廼松に触れながら、その歴史の重みを感じていました。内堀県知事と髙橋町長は、今後も相互に協力しながらまちづくりを進めていくことを確認し合いました。

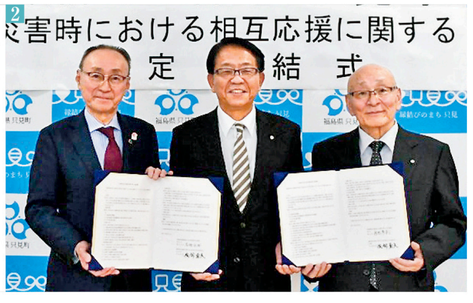
▲町が誇る歴史に触れながら、まちづくりに関して意見交換を行い、相互協力を確認し合いました

県内3自治体による防災トライアングル協定 只見町と相互応援に関する協定締結

桑折町と只見町による「災害時における相互応援に関する協定」の締結式が12月23日、只見町役場で行われました。この協定は、いずれかの町で災害が発生し、被害者救援措置などを単独で実施できない場合に、資機材および物資の提供、人員の派遣、被災者受入れを行い、相互に連携することで住民の安全確保を図るものです。

町は昨年7月に塙町と同協定を締結しており、今回只見町と締結したことで、県北・会津・県南の3町で三角形を描く「防災トライアングル協定」となります。髙橋町長は「地理的条件から、同時に被災する可能性は比較的少なく、互いに地形や道路状況、気候を理解していることから現場に即した支援が行いやすく、より効果的な協力が可能となり、一層の危機管理体制の強化が期待できる」と話しました。只見町の渡部町長は「今回の協定締結はゴールではなく、スタートとして両町の人的交流を進めていきたい」と話しました。





1_三角形を描く3町が平時から連携　2_左から髙橋町長、渡部町長（只見町）、宮田町長（塙町）

誰もが安心して暮らせるまちづくりを みやぎ生活協同組合と包括連携協定締結

町とみやぎ生活協同組合による包括連携協定の締結式が1月16日、役場で行われました。

この協定は、暮らしの安全・安心などさまざまな分野で包括的な連携と協力関係を築き、地域の課題に適切に対応し、協働による事業を推進することにより、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」の実現に寄与することを目的としています。

式では、ホタピーとみやぎ生協・コープふくしま公式マスコットキャラクターの「ふくちゃん」と「はこぶんちょう」が駆けつける中、髙橋町長と尾川輝敏代表理事が協定書に署名。尾川代表理事は「生協の組織力を活かし、相互に連携しながら町に貢献していきたい」とあいさつ。今後、町は同組合とさまざまな連携事業を展開してきます。

1_(左から)ホタピー、髙橋町長、尾川代表理事、ふくちゃんとはこぶんちょう　2_協定書に署名する尾川代表理事と髙橋町長